

2 実践事例（34市町村）

これから着手する予定

市町村名		推進組織名			関係学校名						
白石市		-			-						
		設立年度	教育委員会・担当課		関係学校学級数	児童生徒数					
		-	白石市教育委員会生涯学習課		-	-					
統括的な地域学校協働活動推進員数	統括的なコーディネーター数	地域学校協働活動推進員数	コーディネーター数	地域連携担当数	登録ボランティア数						
1人	0人	0人	0人	0人	0人						
活動目標	-										
【連絡先】	所在地			電話番号	FAX番号						
	〒989-0206 白石市字寺屋敷前25-6			0224-22-1343	0224-24-5377						
協力企業・団体・大学・NPO等			E-mail	con-edu@city.shiroishi.miyagi.jp							
市内約120の企業、各地区まちづくり協議会など			URL	http://www.city.shiroishi.miyagi.jp/							
白石市の概要											
人口	34,200人	割合	65歳以上	34.1%	面積	286.48km ²	学校数	幼・保・こ	10園	産業等	農業、製造業、観光・サービス業
			15～64歳	55.5%				小学校	9校		
			0～14歳	10.4%				中学校	6校		

これまでの経過

- ・平成24年度より白石市協働教育推進協議会を設立し、協働教育事業を行ってきた。
- ・当初の家庭教育支援活動、学校教育支援活動、地域活動を中心に活動を推進してきた。
- ・平成29年度より、放課後子ども教室の拡充を目指し事業を推進している。
- ・現在、統括的な地域学校協働活動推進員1人、全ての放課後子ども教室にかかわる総括コーディネーター1人を配置。
- ・家庭教育支援は、白石市の家庭教育支援チーム「ペアレントらん」主催の事業の他に、県主催事業の「学ぶ土台づくり親の学び研修会」を取り入れながら、事業を推進している。

地域学校協働活動

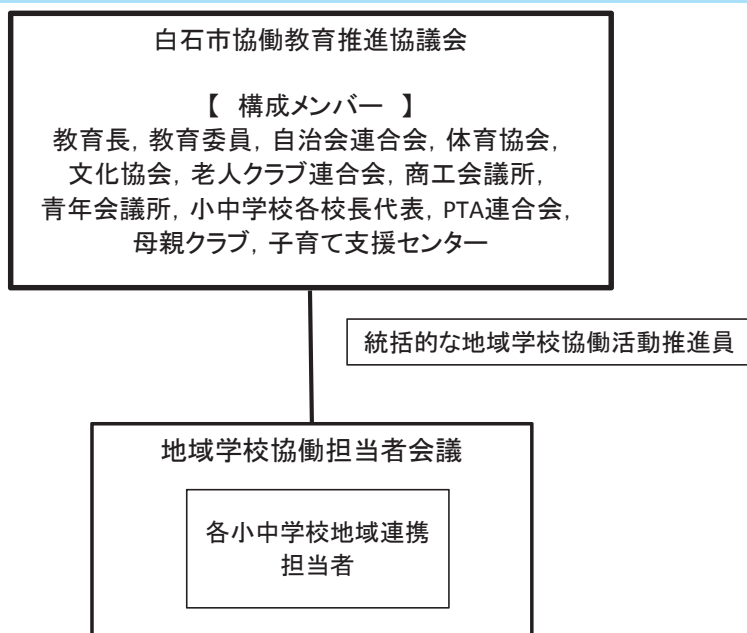
●学校支援活動	●家庭教育支援活動	●地域活動	●放課後子ども教室
登下校安全見守り、部活動指導、登山・スキー補助、防災活動、環境整備、図書整理・読み聞かせ、伝統文化体験、地域探訪、職場体験学習支援、その他	親子リトミック講座、絵本読み聞かせ、親のしゃべり場、子育てふれあいコンサート、家庭の日推進事業	ジュニアリーダー研修、子ども体験学習	越河小学校放課後子ども教室 30人、深谷小学校放課後子ども教室 30人、白石第一小学校(わくわく広場) 28人、白石第二小学校放課後子ども教室 28人

工夫している点

- ・支援ボランティア同士の繋がりや知識習得のため、学校支援活動内容に係る研修会を開催している。
- ・統括コーディネーターが支援者との連絡調整だけでなく、会議内容や研修会の企画なども担っており、より良い事業にするため学校現場に必要な内容を行うことができるよう心掛けている。

行政の支援や取組

- ・白石市協働教育推進協議会委員、地域学校協働活動推進員の委嘱
地域学校協働本部の機能を担う協議会の支援。地域学校協働活動推進員へ学校支援活動・地域活動の企画・運営に関する助言
- ・放課後子ども教室総括コーディネーター、学校と児童クラブとの連絡調整
学校行事や授業時間の変更による対応を迅速に行うための支援
- ・小中学校長、幼稚園長、保育園長へ家庭教育支援事業の説明
家庭支援事業及び支援チームに関する啓発。事業への参加依頼、事業実施機会提供の依頼。



特色ある活動事例

「登山ボランティア研修会」

小中学校の登山活動等の支援にあたるボランティアの皆さんが集まり「登山ボランティア研修会」を開催している。

平成30年度は、実地踏査をしながら研修をしようという会員からの要望があり、えぼしスキー場で実施した。当日は、あいにくの小雨模様であったが、荒天も研修の一つということから、装備の点検、引き返す場所、別ルート等を確認しながら研修を進めた。さらに、児童生徒に楽しんで歩いて欲しいという思いから、昆虫や山野草についての研修も行った。活動計画作成時の支援の在り方についても、併せて意見交換を行うことができ、大変有意義な研修であった。

「放課後子ども教室」

平成30年度から、児童クラブ一体型、連携型の放課後子ども教室を実施した。連携型は、閉校した学校の行事で行われていた伝統文化体験を、統合した小学校の子ども教室で体験活動として行っている。一体型を行っている「わくわく広場」は、絵本読み聞かせと造形活動を組み合わせた内容や調理体験、囲碁将棋等の様々なプログラムを実施している。中でも、運動遊び「ムーブメント」は子供たちに人気の活動である。



登山ボランティア研修会



放課後子ども教室「ムーブメント」

活動の成果

- ・子供たちの学びや成長を支え、学習意欲の向上につながっただけでなく、支援者自身の自己実現や地域の活性化にもつながるなど、相互にパートナーとして連携することが出来た。
- ・支援事業所、ボランティア組織、支援者の情報の集約が進み、プログラムの充実を図ることが出来た。

今後の活動に向けて

・少子化、学校の統廃合が進められ、特色ある教育活動や地域特有の文化継承等が困難になることが予測され、高齢化に伴う人材不足も課題となる。集約した情報を有効的に活用し、地域づくりを行っている団体とも情報を共有しながら、地域の高齢者と若者との関係をつなげるなど地域の人材育成、地域コミュニティの課題解決にもつながるような、連携した活動をしていくことが必要と考えている。

これから着手する予定

市町村名		推進組織名			関係学校名						
角田市		—			—						
		設立年度	教育委員会・担当課		関係学校学級数	児童生徒数					
		—	角田市教育委員会・生涯学習課		—	—					
統括的な地域学校協働活動推進員数		統括的なコーディネーター数	地域学校協働活動推進員数	コーディネーター数	地域連携担当数	登録ボランティア数					
0人		0人	0人	0人	0人	0人					
活動目標		—									
【連絡先】		所在地			電話番号	FAX番号					
		〒981-1505 角田市角田字牛館10			0224-63-2221	0224-63-5633					
協力企業・団体・大学・NPO等				E-mail	syougaku@city.kakuda.lg.jp						
—				URL	—						
角田市の概要											
人口	29,643人	割合	65歳以上	33.5%	面積	147.53km ²	学校数	幼・保・こ	13園	産業等	基幹産業 農業、製造業
			15～64歳	55.6%				小学校	8校		
			0～14歳	10.9%				中学校	3校		

これまでの経過

行政区域界と小学校区がほぼ同一な地域が多く、既に密接な関係を築いており、地域行事と学校行事をはじめとして様々な相互協力体制が取れている。

また、各小学校区に自治センター（公民館）が所在しているため、自治センターがコーディネーター的な役割を果たしている。

家庭教育支援チームは、各自治センターでの実働メンバーを含めたものとなっており、地区の実情と要望に応じ活動している。

地域学校協働活動

●学校支援活動	●家庭教育支援活動	●地域活動	●放課後子ども教室
総合学習支援 登下校見守り 職場体験 青少年劇場小公演 文化芸術による子供の育成事業 その他	家庭教育学級 子育て・親育ち講座 親子教室	ジュニア・リーダーの育成 インリーダー研修 郷土芸能の伝承講習会 こどもフェスティバル	—

工夫している点

各学校の要望に応じ、学校の負担とならないような活動をしていきたいと心掛けている。

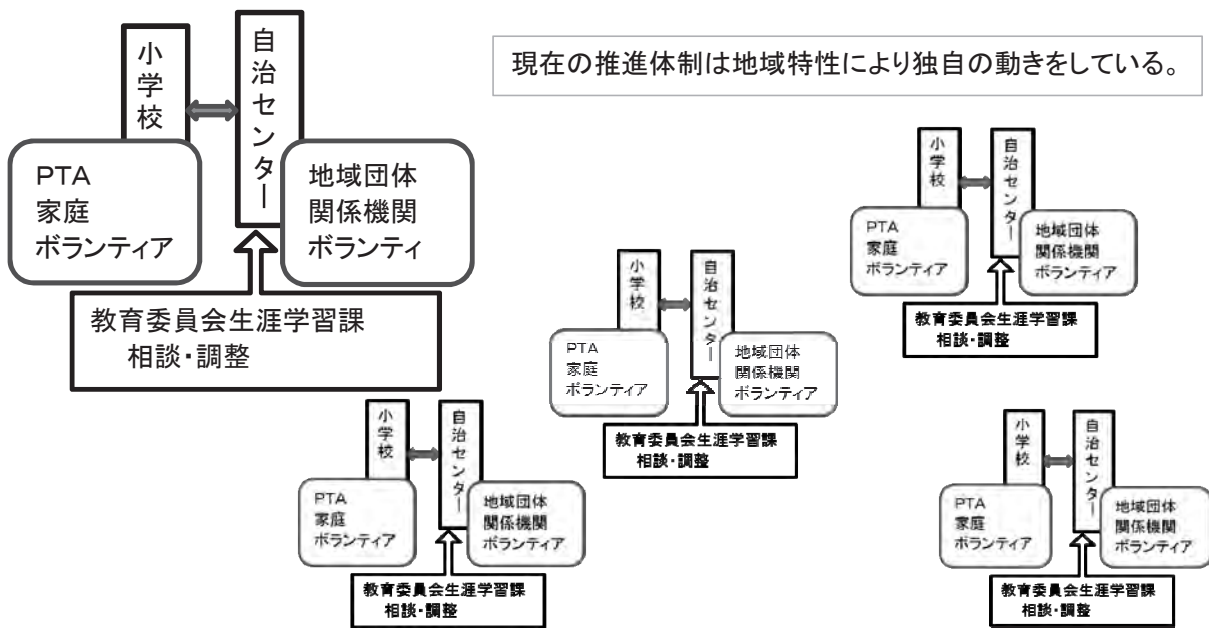
行政の支援や取組

かくだ家庭教育支援チーム

地域学校協働活動（主に家庭教育支援活動）の支援

学校支援活動・地域活動の支援及び調整

各地区自治センターにおいて各学校との調整及び協力を行っているケースが多いが、社会教育主事や生涯学習担当職員が積極的に指導助言を行える体制を検討中である。



特色ある活動事例

家庭教育支援チームの構成員が所属しているNPO法人では、子育て支援と高齢者サロンの運営も行っている。年に数回、季節行事に合わせて交流会を設けることで高齢者世代からの知識の伝達がみられ、高齢者を敬う様子が見られたりもしている。イベントを通して親子の愛着形成が図られるだけではなく、地域の方々との世代間交流も活発になる活動となっている。

高齢者サロンと親子教室の合同クリスマス会の様



他のイベント機会を活用した親子教室の様子

親子教室への参加者に固定化と減少の傾向が見られるため、解決策を模索している。
 試みの一つとして、集客が見込めるイベントの機会を活用したケースや、青年教育とのコラボなど、これまでとは違う切り口での親子参加型の教室の開設にチャレンジしている。

活動の成果

地域特性を生かした活動をそれぞれに行っており、参加者をはじめとした関係者の満足度や成果も高いと考えられる。

今後の活動に向けて

地域ごとの活動が中心となっていること、小学校以下の子供がいる世代の方々や幼稚園、保育所等の幼児教育施設との関わりが中心となっていることなどから、活動の偏りが大きいと感じている。
 少子高齢化を見据え大きな変革が検討されているため早急な動きはできないものの、これまで組織や活動を生かしながら市内全域を網羅する形のネットワークづくりに努め、体制を整えていきたいと考えている。

蔵王の子どもたちを地域のみなさんと一緒に育みます!

市町村名		推進組織名			関係学校名						
蔵王町		地域学校協働活動推進本部			遠刈田小学校, 永野小学校, 円田小学校, 平沢小学校, 宮小学校, 遠刈田中学校, 円田中学校, 宮中学校						
		設立年度	教育委員会・担当課		関係学校学級数		児童生徒数				
		6	生涯学習課		51学級		833人				
統括的な地域学校協働活動推進員数		統括的なコーディネーター数	地域学校協働活動推進員数	コーディネーター数	地域連携担当数	登録ボランティア数					
0人		1人	45人	2人	8人	115人					
活動目標	家庭・地域・学校が協働して子供を育てる環境づくりを推進する。また、地域の教育力の向上や活性化を図り、地域全体で子供を育てる体制の整備を図る。										
【連絡先】		所在地			電話番号		FAX番号				
		〒989-0821 宮城県刈田郡蔵王町大字円田字西浦5番地			0224-33-2018		0224-33-2019				
協力企業・団体・大学・NPO等				E-mail	shougaigakushu@town.zao.miyagi.jp						
文化協会, 婦人会, 体育協会, 地域活動連絡協議会, 子ども会育成会, 地区公民館ほか 計10団体				URL	http://www.toun.zao.miyagi.jp						
蔵王町の概要											
人口	12,129人	割合	65歳以上	31.9%	面積	152.83km ²	学校数	幼・保・こ	2園	産業等	農業, 林業, 水産業, 製造業, 建設業, 加工業, 小売業, 観光
			15~64歳	56.8%				小学校	5校		
			0~14歳	11.2%				中学校	3校		

これまでの経過

- ・子供の健やかな育ちには家庭・地域・学校それぞれの役割が必要不可欠とされている。しかし、近年、核家族化、就業形態の多様化、価値観の多様化など、社会の状況が大きく変化しており、世代間のつながりや地域での交流が失われ、家庭や地域の教育力の低下や孤立化が進む傾向が見受けられるようになってきている。
- ・平成20年度～23年度の期間実施された「蔵王町学校支援本部事業」をベースに『家庭教育』と『地域活動』に対する支援を合わせて平成24年度から「蔵王町協働教育プラットフォーム事業」としてスタートし、現在に至っている。

地域学校協働活動

●学校支援活動	●家庭教育支援活動	●地域活動	●放課後子ども教室
本の読み聞かせ, 図書整備, 登下校指導見守り, 学習支援活動, 校外活動支援, 職場体験学習の協力, 青少年劇場小公演	家庭教育支援チームの活動(公民館講座, 家庭教育支援講座, 託児等), 親子ふれあい教室, 本に親しむ活動	ジュニア・リーダー研修会, ジュニア・リーダー主催事業, インリーダー合宿研修会, 蔵王町子ども会大会	—

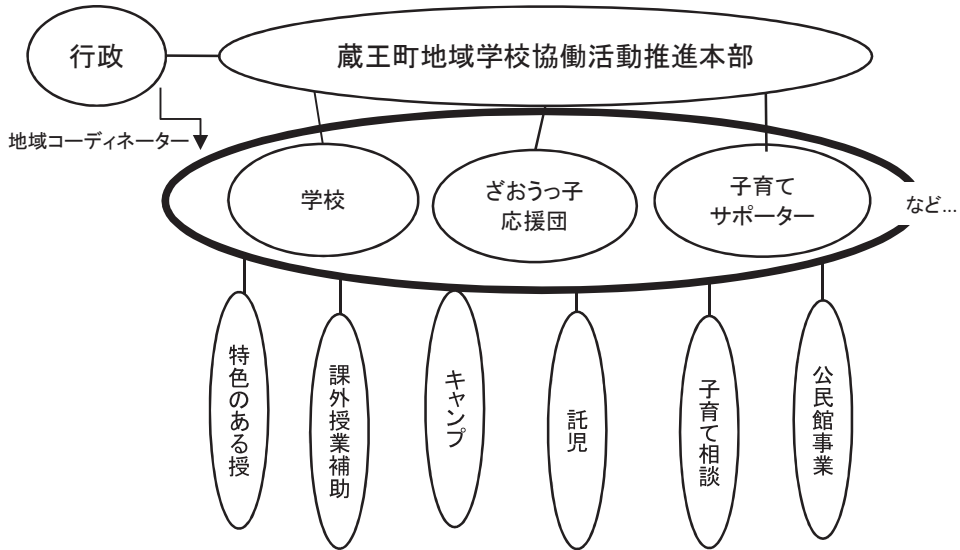
工夫している点

- ・町民への認知度を高めるため、地域学校協働活動に関するリーフレットを作成・配布している。
- ・学校からの要望だけでなく、ボランティアが子供たちに知ってもらいたい・体験してもらいたい内容を実施できるよう、双方の意見や要望を取りまとめている。

行政の支援や取組

- ・蔵王町地域学校協働本部運営委員会及び各学校協議会の指導・支援
蔵王町地域学校協働本部の機能(学校支援活動・家庭教育支援活動・地域活動)の支援

組織体制のイメージ図



特色ある活動事例



親子ふれあい教室



子育てサポーターの活動



教育講演会



インリーダー合宿



町の歴史を知る学習



子ども伝承・創作芸能

活動の成果

- ・子育てサポーターチームの地道な活動が広がり、全小学校で体験していただけるようになった。また、県事業での事例発表を通し、町の取り組みを広く発信できた。
- ・例年実施している事業により、人材育成や世代間の交流に寄与することができた。また、ジュニア・リーダー活動では、新たに野外活動体験事業を行い、リーダー育成の一助を担った。
- ・多種多様な技能を持ち合わせたボランティアを有する「ざおうっ子応援団」の人材バンクを活用した様々な魅力的事業を開催し、子どもたちの学習意欲の向上に寄与している。また、活動を通して自分の知識や特技を生かし、子どもたちや地域の方々が必要とされること、感謝されることに大きな喜びと生きがいを感じている。

今後の活動に向けて

- ・家庭教育支援では、興味・関心の希薄な人々に対してどのようにアプローチし、事業に参加してもらうかがカギとなる。また、子育てサポーターの方々のモチベーションを維持できるような取り組みも必要。
- ・地域活動支援では、子ども会活動などをはじめとした地域の取り組みが衰退傾向にある。人材の育成と同時にその人材が活躍できる仕組み・枠組みの構築が必要。
- ・学校教育支援では、教職員及び地域への協働教育の認知がまだまだ進んでおらず、支援内容も例年通りの活動に限定されることが多い。認知や理解を広げるため、地域と学校へ新たなアプローチが必要となる。

これから着手する予定

市町村名		推進組織名			関係学校名						
七ヶ宿町		-			-						
		設立年度	教育委員会・担当課		関係学校学級数	児童生徒数					
		-	七ヶ宿町教育委員会		-	-					
統括的な地域学校協働活動推進員数	統括的なコーディネーター数	地域学校協働活動推進員数	コーディネーター数	地域連携担当数	登録ボランティア数						
0人	1人	0人	2人	2人	0人						
活動目標	-										
【連絡先】 所在地				電話番号	FAX番号						
〒989-0592 七ヶ宿町字関126				0224-37-2195	0224-37-2203						
協力企業・団体・大学・NPO等			E-mail	shichi41@town.shichikashuku.miyagi.jp							
源流米ネットワーク, 社会福祉協議会, 老人クラブ連合会, 文化協会, 体育協会, 子ども会育成会, 役場, 本読み応援隊			URL	-							
七ヶ宿町の概要											
人口	1,411人	割合	65歳以上	46.1%	面積	263.09km ²	学校数	幼・保・こ	1園	産業等	農業, 林業, 製造業, 建設業, 小売業, 観光
			15~64歳	47.0%				小学校	1校		
			0~14歳	6.8%				中学校	1校		

これまでの経過

- ・七ヶ宿町教育推進協議会を地域学校協働本部に類する組織として運営している。
- ・町内保・小・中・高校と連携・協働し, 学校支援活動に取り組んでいる。
- ・放課後子ども教室以外の地域学校協働活動に取り組んでいる。
- ・「コーディネーター数」内訳, 「学校・地域コーディネーター2名」

地域学校協働活動

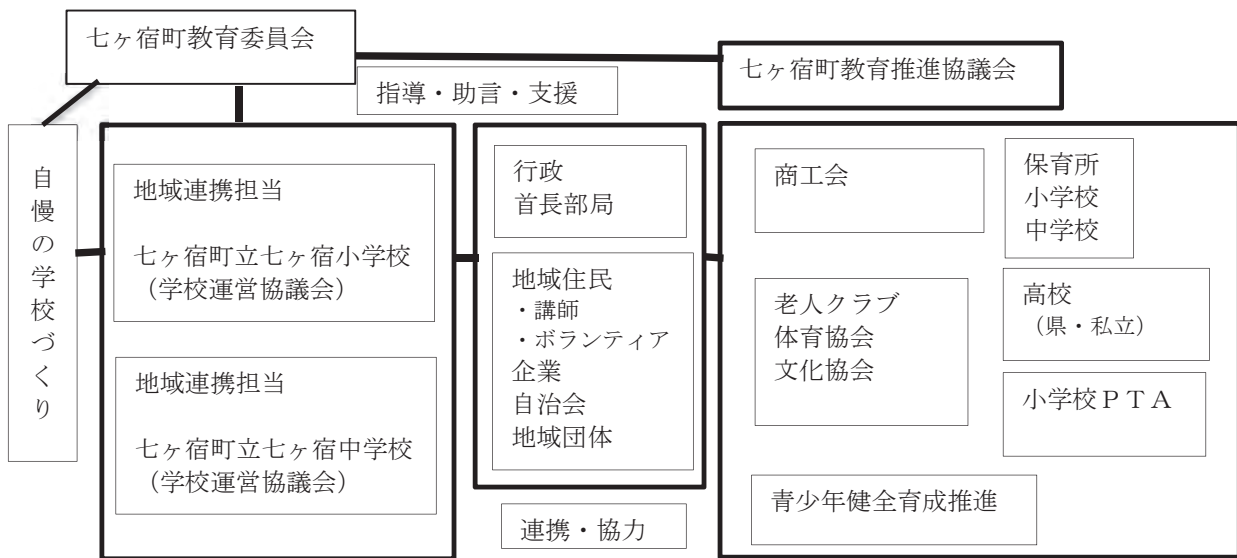
●学校支援活動	●家庭教育支援活動	●地域活動	●放課後子ども教室
登下校安全指導, 世代間交流, 自然体験, 防災・減災活動, 環境整備, 図書整備・読み聞かせ, 学習支援活動, 学校行事支援, 地域理解, 職場体験・キャリア教育	子育て支援講座, 親子教室, 芸能鑑賞会	青少年リーダー研修会, 町の歴史探訪, ふるさと祭り, 高齢者支援運動	-

工夫している点

- ・小, 中学校が直接, 地域と結び付くことができる環境が継続されており, 現場に必要な人材を確保している。

行政の支援や取組

- ・小中学校への指導・支援
学校支援活動の支援。
町社会教育主事と学校担当教諭との連絡・調整, 打ち合わせを実施。
- ・地域学校協働活動の推進
町教育推進協議会で, 地域学校協働活動の連携を推進。



特色ある活動事例

①家庭教育支援「ぼっぼクラブ」

乳幼児を持つ父母等を対象とする交流会。子育て仲間をつくる。月1回、プレミアムフライデーの体験として開催した。
当町には子育てサークルはない。保育所と協力して、これまでの事業を改編し、交流会を開催した。



ぼっぼクラブ

②地域活動支援「保育所園児との交流会」

保育所園児との交流会。ジュニア・リーダーによる保育体験を行った。
ジュニア・リーダーが事業準備から参画し、安全面や注意点を共有し運営した。5日間の交流会。
このほか、高齢者との園芸体験を行っている。



保育所園児との交流会

活動の成果

- ・平成29年度には、地域学校協働活動としての環境を実現するため、保小中高等学校との連携による教育支援体制づくりを推進した。
- ・学校教育支援では、町の文化的活動をはじめとした子供たちの体験活動の機会が充実し、学習活動への意欲が高まった。

今後の活動に向けて

- ・地域人材の活動により、児童・生徒たちにとって学習や体験が地域を知るきっかけとなり、学校と地域を結びつけることに繋がっている。地域の担い手としての意識を高める取り組みを推進したい。
- ・人材不足が状態化している。学校や地域が連携ができるよう教育委員会として維持していきたい。また、町外との連携も広げていきたい。